

北尾宏之教授 略歴 主要著書・論文目録

略 歴

- 一九五七年一二月 京都市に生まれる
- 一九七六年三月 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎卒業
- 一九七六年四月 京都大学文学部入学
- 一九八〇年三月 京都大学文学部哲学科卒業
- 一九八〇年四月 京都大学大学院文学研究科哲学専攻修士課程入学
- 一九八二年三月 京都大学大学院文学研究科哲学専攻修士課程修了
- 一九八二年四月 京都大学大学院文学研究科哲学専攻博士課程入学
- 一九八五年三月 京都大学大学院文学研究科哲学専攻博士課程単位取得満期退学
- 一九八五年四月 日本学術振興会奨励研究員・倫理学（一九八六年三月まで）
- 一九八六年四月 京都外国語大学外国語学部非常勤講師（一九八七年三月まで）
- 一九八七年四月 京都外国語大学外国語学部専任講師（一九九四年三月まで）
- 一九九四年四月 京都外国語大学外国語学部助教授（一九九六年三月まで）
- 一九九六年四月 立命館大学文学部助教授（二〇〇二年三月まで）
- 二〇〇二年四月 立命館大学文学部教授
- 二〇〇二年四月 立命館大学文学部副学部長（二〇〇四年三月まで）
- 二〇〇九年四月 立命館大学文学研究科研究科長（二〇一〇年三月まで）
- 二〇一二年四月 立命館大学図書館長（二〇一三年三月まで）
- 二〇二三年三月 立命館大学文学部を定年退職

《主要著訳書および論文》

【論文】

- 「カントに於る実践哲学の位置——自由論を手掛かりにして」、実践哲学研究会編『実践哲学研究』五号、一九八二年
- 「カントに於ける実践哲学の位置——実践的独断的形而上学をめぐる諸問題について」、関西倫理学会編『倫理学研究』一四集、一九八四年三月
- 「哲学の自己根拠づけは可能か——アーペルの場合 カント、ハイデッガー、クリングスとの対照において」、『理想』六二九号、一九八五年一月
- 「ロック——道徳の認識論的基礎づけ」、寺崎峻輔・塩出彰編『西洋倫理思想の展開』、学術図書出版社、一九八七年四月
- 「死についての一つの試論」、京都外国語大学機関誌編集委員会編『京都外国語大学研究論叢』三〇号、一九八八年三月
- 「カントの「構想力」——コミュニケーションの制約として、また自由への通路として」、京都外国語大学機関誌編集委員会編『京都外国語大学研究論叢』三二号、一九八八年九月
- 「ヨーロッパ人の死生観」、京都外国語大学地中海文化研究会編『Mare Nostrum』一号、一九八八年十二月
- 「コミュニケーション」、訓覇暉雄・有福孝岳編『倫理学とはなにか——その歴史と可能性（新版）』、勁草書房、一九八九年二月
- 「医療におけるコミュニケーション」、塚崎智・加茂直樹編『生命倫理の現在』、世界思想社、一九八九年六月
- 「基礎」への問いから「基礎づけ」への問いへ」、日本倫理学会編『規範の基礎』、慶應通信、一九九〇年一〇月
- 「生命倫理は何を論じるべきか——自己決定権と社会的合意」、京都外国語大学機関誌編集委員会編『京都外国語大学研究論叢』三七号、一九九一年九月
- 「道徳の正当化」問題に関する一考察——何をどのように正当化するのか」、京都外国語大学機関誌編集委員会編『京都外国語大学研究論叢』四一号、一九九三年九月
- 「主夫・主婦」、川本隆史・須藤訓任・水谷雅彦・鷲田清一編『マイクロ・エシックス——小銭で払う倫理学』、昭和堂、一九九三年九月
- 「現代の超越論哲学」、竹市明弘・坂部恵・有福孝岳編『カント哲学の現在』、世界思想社、一九九三年一〇月
- 「コメント・「全体論としての」目的論としてのシステム論?」、佐藤康邦・中岡成文・中野敏男編『システムと共同性——新しい倫理の問題圏』、昭和堂、一九九四年一月
- 「ロールズの「正義の構想」を支えるもの」、京都外国語大学機関誌編集委員会編『京都外国語大学研究論叢』四四号、一九九五年三月
- 「ロールズの「重なり合う合意」説」、立命館大学文学部人文学会編『立命館文学』五四三号、一九九六年二月

- 「権利と功利」、関西倫理学会編『倫理学研究』二七号、一九九七年三月
- 「道德の源泉はどこにあるのか」、佐藤康邦・溝口宏平編『モラル・アポリア——道德のディレンマ』、ナカニシヤ出版、一九九八年二月
- 「法と正義」、有福孝岳編『エチカとは何か——現代倫理学入門』、ナカニシヤ出版、一九九九年二月
- 「カントの「自律」概念における他者の問題——「普遍的自己立法」の概念を手がかりにして」、『立命館哲学』一〇集、一九九九年三月
- 「自己の存立を可能にするための道德——「道德を要求する理由」の考察から出発して」、大庭健・安彦一恵・永井均編『なぜ悪いことをしてはいけないのか——Why be Moral?』、ナカニシヤ出版、二〇〇〇年九月
- 「マスメディアとプライバシー」、加茂直樹編『社会哲学を学ぶ人のために』、世界思想社、二〇〇一年五月
- 「正しさを語りうるために——カントに即して」、安彦一恵・谷本光男編『公共性の哲学を学ぶ人のために』、世界思想社、二〇〇四年八月
- 「暴力問題への倫理的アプローチ序説」、『暴力と人間存在の関わりについての理論的および実証的な全体研究（研究代表者谷徹）』（平成17～平成19年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書）、二〇〇八年三月
- 「私にとつての規範性の基礎づけと道德規範の基礎づけ」、関西倫理学会編『倫理学研究』三六号、二〇〇六年四月
- 「カント倫理学における「義務」の概念について」、立命館大学文学部人文学会編『立命館文学』六〇三号、二〇〇八年四月
- 「カント倫理学における背進的方法と前進的方法——『道德形而上学の基礎づけ』第2章の一つの読み方」、実践哲学研究会編『実践哲学研究』三一号、二〇〇八年一月
- 「カントの刑罰論」、立命館大学文学部人文学会編『立命館文学』六二五号、二〇一二年二月
- 「カント『道德形而上学の基礎づけ』の研究（一）——「序言（Vorrede）」の研究」、立命館大学人文学会編『立命館文学』六四八号、二〇一六年八月
- 「カント『道德形而上学の基礎づけ』の研究（二）——第一章の研究」、立命館大学人文学会編『立命館文学』六五一号、二〇一七年三月
- 「カント『道德形而上学の基礎づけ』の研究（三）——第二章の研究（その一）」、立命館大学文学部人文学会編『立命館文学』六六二号、二〇一九年二月
- 「カント『道德形而上学の基礎づけ』の研究（四）——第二章の研究（その二）」、立命館大学文学部人文学会編『立命館文学』六六五号、二〇二〇年二月
- 「カント『道德形而上学の基礎づけ』の研究（五）——第二章の研究（その三）」、立命館大学文学部人文学会編『立命館文学』六六九号、二〇二〇年九月
- 「カント『道德形而上学の基礎づけ』の研究（六）——第三章の研究」、立命館大学文学部人文学会編『立命館文学』六七六号、二〇二一年十二月

【翻訳】

- K・O・アーベル「科学時代における責任倫理の合理的基礎づけ」、丸山高司・北尾宏之訳、『思想』七三九号、一九八六年一月
- O・ヘッフェ「超越論的理性批判は言語哲学のなかで止揚されたのか(一)——E・ツェンツェントハットの構想ならびにK・O・アーベルの構想との対決」、北尾宏之訳、『理想』六三四号、一九八七年四月
- O・ヘッフェ「超越論的理性批判は言語哲学のなかで止揚されたのか(二)——E・ツェンツェントハットの構想ならびにK・O・アーベルの構想との対決」、北尾宏之訳、『理想』六三五号、一九八七年七月
- オトフリート・ヘッフェ『政治的正義——法と国家に関する批判哲学の基礎づけ』、北尾宏之・平石隆敏・望月俊孝訳、法政大学出版局、一九九四年九月
- スーザン・メンダス『寛容と自由主義の限界』、谷本光男・北尾宏之・平石隆敏訳、ナカニシヤ出版、一九九七年一二月
- カント「理論と実践」、北尾宏之訳・解説、『カント全集14』、岩波書店、二〇〇〇年
- カント「七つの公開声明」、北尾宏之訳・解説、『カント全集13』、岩波書店、二〇〇二年三月
- カント「『理論と実践』準備草稿」、北尾宏之訳・解説、『カント全集18』、岩波書店、二〇〇二年一月
- カント「書簡I」、『カント全集21』、岩波書店、二〇〇三年四月

【事典項目等執筆】

- 有福孝岳・坂部恵・石川文康・大橋容一郎・黒崎政男・中島義道・福谷茂・牧野英二編『カント事典』、弘文堂、一九九七年一二月(執筆項目…「意図」「実践理性の優位」「習慣」「命法」「利口」)
- 『岩波新・哲学講義3 知のパラドックス』、岩波書店、一九九八年一月(執筆項目…「ア priori」「自然主義」「直観」「表象」)
- 大庭健編集代表『現代倫理学事典』、弘文堂、二〇〇六年一二月(執筆項目…「アーベル」「嘘」「裏切り」「信頼」「絶対/相対」「超越論哲学」)